

各教科からのメッセージ（2026 年度）

【国語】

国語の試験は、60分120点満点で行います。試験では、次の3つのことを求めます。

- 1 すじ道をたどって正確に文章を読み取ることができるか。
- 2 心情を読み取ることができるか。
- 3 ていねいに表現することができるか。

限られた時間のなかですが、できるだけ問題文や設問をていねいに読んでほしいと思っています。時々、問題文や設問を急いで読み、内容や設問意図をよく理解しないままに問題を解いたと思われる解答があります。文章を正しく理解できたら、解答にたどりつくことのできるように問題を作っていますので、まずはしっかりと文章と向き合って、心情の変化や文章のすじ道を読み取ってください。

それから、解答の文字をていねいに書いてください。漢字は、うまいへたではなくて、ていねいに書いてあるかを見えています。したがって、雑^{ぎつ}で、ごまかしたような書き方の文字は認めません。楷書^{かいしよ}で、一画一画ていねいに、濃い字でバランスにも気をつけて書いてください。漢字だけでなく、解答はすべて解答欄^{わく}の枠のなかにしっかりと書いてください。たとえ正確に文章が読み取れたとしても、何が書いてあるのかがわからない答案は、採点することができません。これでは非常にもったいないことになってしまいます。どうか身体に気をつけてがんばってください。

【算数】

算数は60分の試験を行います。基本的な力を見る問題と、応用力・考え方を問う問題を、バランスを考慮^{こうりよ}して出題します。内容は、小学校の学習指導要領に定められている範囲^{はんい}から出題します。小学校で習わない方法を使って解いてもいいかという質問を受けることがあります。筋道^{すじみち}立てて正しく出せば問題ありません。もっともそのような方法を必要とする問題は出ませんのでご安心ください。

受験生の皆さんにお伝えしたいことは、「最後まであきらめずに答案を書いてください」ということです。途中^{とちゅう}計算^{けいさん}の欄^{らん}を設けている問題があります。そのような問題では答のみしか書いていない答案は減点することがあります。また、答までたどりついていなくても筋道^{すじみち}立てて正しく展開されているときは評価することがあります。答えが出ていなくても書いてあることはしっかり、じっくりと見ています。頑張^{がんば}って粘^{ねば}り強く取り組んでください。

【社会】

40 分 80 点満点の試験を行います。小学校で使用されている教科書・地図帳・副読本に掲載されていることから出題します。

出題分野としては地理・歴史・政治からできるだけまんべんなく出題します。広島にある学校ですので、広島に関する問題も出題します。その際、作問には 3・4 年生で使用する副読本『わたしたちの広島 3・4 年』も参考にしています。

入試では、時事問題も出題します。日ごろから新聞やニュースを見る習慣をつけておいてください。

知識を問う問題とともに、「ある出来事はなぜ起こったのか」など、その理由や目的を問う問題も出します。ある出来事や年号などを単純暗記するだけではなく、「なぜその出来事が起こったのか」「その結果、何が次に起こったのか」などを説明できる力をつけておいてください。

字はていねいに答案用紙に書いてください。問題文をよく読んで、設問の指示どおり答えてください。

【理科】

物理・化学・生物・地学の4つの各分野から幅広く出題し、試験時間は40分、80点満点で行います。なお、各分野の出題の配点が均等であるとは限りませんので、小学校の教科書の内容を満遍なく学習しておいてください。

また、問題によっては教科書に載っていないものが含まれる場合があるかもしれません。その場合は、問題文中に十分な説明を加えて出題しますのでご安心ください。

理科の学習に関して、広島学院で大切にしている3点をお伝えします。

- 1 教科書の知識に偏ることなく、実験や観察を注意深く行い、なぜそうなるのか、理由や根拠を考えること。
- 2 筋道を立てて論理的に考えるように日頃から意識すること。
- 3 問題文をきちんと読んで問題の意図を的確に把握し、問われたことに対して的確に解答できる『読解力』を身に付けること。

理科は重要事項や公式を暗記するだけの科目ではありません。目の前にある自然現象や実験データに向き合い、どのような考えや発想が生み出されていくのか、この部分に理科の面白さがあり、そして理科の実力を伸ばす重要なポイントがあるのではないかと思います。

受験生の皆さんの健闘を祈ります。ぜひ、広島学院で一緒に学びましょう。